

# コミュニティ参加型森林再生事業における個人のソーシャル・キャピタル:フィリピン農村部の事例

中山日出海

キーワード: ソーシャル・キャピタル, コマネジメント, 社会ネットワーク

## 1. 背景と目的

特に途上国を中心に、土地利用の転換が世界の森林消失を駆動してきた。それによる各種汚染や災害の増加、温暖化の推進などの懸念から各国政府は、持続可能な森林管理の方法を模索してきた。その一つがコマネジメントと呼ばれる、地元の人々の主体的な参加に基づく資源管理手法である。地元コミュニティ参加型のこのような管理プロジェクトは地元の人々の緊密な協力が不可欠であるため、その協力をよりスムーズにする要素であるソーシャル・キャピタル（以下 SC）が注目されてきた。SCとは「人々の相互理解や価値観の共有を伴い、それによって互いの信用と協働を可能にするつながり」と定義され、信用、互酬性の規範、ネットワークの要素で構成されると言われる（OECD, 2007:1）。SCの特徴の一つとして、交流するほどに増加する自己強化性が挙げられるが、実際にコマネジメントにおける住民間の協力行動でも増加することが報告されている。しかしながら、具体的に誰がプロジェクトに参加するのか、その中で各人がどのような立場をとるのか、各人の参加と非参加やプロジェクト内での立場や SC となんらかの相関を有するのかを明示した研究はない。そこで、本研究はケーススタディとして、フィリピンのある農村部で展開されているマングローブ林管理プロジェクトの参加者と非参加者の比較、および参加者間の SC の定量的比較を通じて上記のリサーチギャップを埋めることを目的とする。まずは SC の定量化、人口学的データの収集、および参加者の社会ネットワーク生成を目的として、前述のフィリピン農村部にてプロジェクト参加者 26 世帯と非参加者 15 世帯を対象にアンケート調査を行った。得られたデータは t 検定や重回帰分析にかけられ、SC の差や SC の各要素の決定要因が見出された。

## 2. 結果と考察

参加者と非参加者の間には明らかな SC の差や収入の差はないが、居住年数や年齢に統計的差異が確認された。また参加者の社会的地位は各人の職業や血縁関係の強さに正の相関を示した。しかしながら、社会的地位それ自体は参加者個人の SC 形成に対して決定的に働く要因ではなく、それぞれの SC 要素によって異なる要因が相関を示した。また参加者を中心的なアクターとそれ以外のアクターの 2 グループに分けて SC を比較したが、多くの要素では統計的有意差が確認されなかった。参加者と非参加者、および参加者間での SC の大きな差が確認されなかったことは、このコミュニティが元来備えている豊かな社交機会によるものかもしれない。しかしながら、参加者の方が、またとりわけ影響力の大きい参加者の方が地元の人々や地元団体などのつながりが強いことが確認された一方で、認知的領域ではこの差異が逆転しているという事象が観察された。

### 参考文献

Insights, O. E. C. D. (2007). "Human Capital: How what you know shapes your life." OECD publishing.